

---

# 続・父が魔王で息子が勇者で！？

sibugaki

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

続・父が魔王で息子が勇者で！？

### 【Nコード】

N2728BA

### 【作者名】

sibugaki

### 【あらすじ】

皆様大変長らくお待たせしました。

遂にあのチート魔王とヘツポコ勇者の二人が帰って来ました！

今回も魔王のポケっぷりや息子のツッコミっぷりに爆笑して下さい。更に今回からはあのロマンハンターや誘拐したお姫様に続き、新しい新キャラも登場する予感がチラホラ。

等等など、皆さんもご一緒に愛？と感動？と熱血バトル？と超絶笑いのギャグファンタジーの世界へ行きましょう

**第1話 時が経って僕は相変わらずで（前書き）**

第1話目なのにダラダラと長く書いてしまいました

## 第1話 時が経って僕は何も変わらなくて

勇者と魔王。それを聞いて皆様は何を思い浮かべます？

大概の人がこう思うでしょう。

それは、勇者が『善』で魔王が『悪』と言う概念であろう。

それは遙か昔、そうこの言葉が出来上がった頃から出来た関係なのである。

そもそも魔王が突然人間達の世界に現れて散々大暴れして魔物を放つて世界を滅茶苦茶にし、拳句の果てにはお城のお姫様を攫い世界を恐怖のどん底へと突き落とそうとするのだ。

そもそも何故常にお城に生まれてくるのがお姫様なのか甚だ疑問なのだが其処は置いて突っ込まないで置いておく。

そして、人々が恐怖と絶望に陥れられた時、そんな人々の中から現れる者、それが勇者なのだ。

勇者は数々の魔物を倒し、人々を救い出し、やがては魔王を倒し、お姫様を救い出してそのお姫様と結婚し、そのお城の王様に未永く幸せに暮らす。

そんな関係が遙か昔から出来上がってきた関係だったのだ。

恐らく、皆様が勇者と魔王と聞いたならそんな風な事を思い浮かべるであろう。

え？それじゃ僕の思っている勇者と魔王はどんなのだった？

うーん、それはあんまり人前で言える事じゃないんだけど・・・ま、しょうがないか。

って、そうだ！まずは自己紹介をしないと。

それでは皆様はじめまして。

僕の名前は『ピツケル』  
タダノ村出身の極普通の少年です。  
既に知っている人も多いでしょうが、まずは僕の中にある勇者と魔王の関係について話しておきます。  
まず、勇者ですが・・・それは僕です。  
はいそこ！今一瞬笑ったでしょう！嘘じゃないですよ。  
これは揺ぎ無い事実なんです。  
では、魔王は？と言う質問ですが・・・それは正直言いたくないんですが。

・・・それは僕の・・・『父』です。

\*\*\*

その日、僕は変わり果てた家の庭に置かれている小さなベンチに座り今日も燦燦と輝く太陽を眺めながら年不相応な溜息をあげています。何故年不相応ですかですって？それは僕がまだ少年だからです。皆様の記憶にも新しい『ルビー王女誘拐事件』から実に3年経ったのが今なんです。  
それから分かる通り、今の僕は12歳になってます。ほんのちよつと大人になったかな？って思うのはまだまだ僕が少年だからこそ思う錯覚なんだと思います。

では、何故僕が溜息をついたのか？その理由は僕の脳裏には一つしか浮かびません。

因みにその溜息の理由の人は現在僕の家の中に居ます。

へ？こんなお昼時に家の中に居るってもしかして僕の父が引きこもりが俗に言うニートかとか思ってます？

残念ですがそっちの方が僕にとっては幸せかも知れません。

先にも言いました通り僕の父は『魔王』もとい『大魔王』なんです。ですので父は家で仕事をします。

その仕事の内容が・・・魔王の仕事です。

魔王の仕事・・・それはつまり魔王城で鎮座し、魔物を倒しレベルを上げて最強の装備で挑んできた勇者に挑むのが魔王の仕事なんです。

其処で勇者と魔王が白熱のバトルを繰り広げてお互い傷だらけになりながらも最後の最後まで真剣に戦い抜く。そんな心熱くなる展開をご想像している皆様。

残念ですがそんな考えは捨ててください。

僕の父に限ってはそんな事は一切ありません。

何故なら・・・今僕の目の前にまた一人勇者が振ってきたからです。目の前に振ってきたのは隈ヒゲにゲジマユでスキンヘッドのいかにもベテラン臭の漂う勇者です。

装備には伝説の龍の鱗でつくられたと思われる鎧と聖なる力を宿した伝説の剣が握られていたのですが。

今ではその鎧は殆ど傷だらけで1文の値打ちもなさそうですし、伝説の剣に居たつては半分ポッキリと折られておりこちらも値打ちは無くなってしまいました。

「お・・・おのれえ・・・今度こそ・・・今度こそ必ず魔王を倒してやる！その為にももつと良い装備を整えてやる！」

ベテランの勇者は伝説の剣を松葉杖変わりにして魔王城を出て行く。

既に僕には見慣れた光景である。

あれから既に3年も経っているのだから当然挑んでくる勇者も相当な数になっているのだ。

最早僕の覚えている中でその総数は百や二百では足りなくなっていた。

だが、それだけなら只沢山勇者が挑んでいる・・・と、言うだけなのだが問題はその魔王である。

と、そう考えている間にもまた勇者が僕の前に降って来た。

今度は何と一気に10人も降って来たのだ。

しかも、その殆どが額に何か小突かれた様な跡が残っている。

其処から想像出来る通り、彼等は皆只の一撃でやられたんです。

そう、其処から分かる通り僕の父、即ちこの城の主である魔王は滅茶苦茶強いのです。

もう強い通り越して強すぎます。

もう俗に言うチートと言っても過言じゃありません。

それほどまでに僕の父は強いんです。

尚、今出てきた勇者の皆様の平均レベルは80位は見える。

ですが、その勇者が10人全員一撃で倒されてしまったのです。

では、僕の父のレベルは一体幾つなのか？

それはつい3年前の記録なのですが父のレベルは既に『9』を四桁持っています。

もうこれ以上上がらないんじゃないの？とお思いますが僕の父はまだまだ強くなります。

ハッキリ言っただけかなり迷惑な話です。

以前、僕は父に尋ねました。

「父さん、どうしてそんなに強くなるうとするの？」

「勿論、私が魔王だからさ」

「でも、それじゃ誰も父さんを倒せなくなるんじゃないの？」

「心配ないさ。何せ私を倒せるのは息子であるお前だけなんだから

な」

これですよ。

僕の父は僕以外の勇者に討たれるつもりはこれっぽっちも持ち合わせないんです。

はつきり言つてかなり迷惑な話です。

幾ら最近巷で『勇者ブーム』が沸騰しているからって僕まで勇者にしなくても良いのに。

さてさて、話の腰を折るようで申し訳ないのですが、皆様の中で既にお気づきの人も居るみたいなのですが、僕の父は元々は人間なのです。

マジメで家族思いでちよつとお茶目な優しい僕の憧れの父でした。

では、何故その父が魔王になってしまったのか。

それは今から遡る事3年前のある日、僕は何時もの様に外で巻き割りをしている父の元へ行きました。

ですが、其処に居たのは優しい僕の父ではなく、真つ黒い獅子の様な鬣を模したヒゲを持ち、頭には二本の立派な角を生やし、鋭い眼光は睨んだ物全てを貫く程鋭く、纏った衣服は禍々しさをかもし出している。

いかにも魔王な格好になっていたのです。

最初それを見た僕は肝を潰す勢いでした。

慌てて僕は母さんに父さんを見せたのですが母さんは全然気にしてません。

寧ろ「別に魔王でも良いじゃない？困らないんだし」と言うノリなのである。

貴方は良くても息子である僕に居たつては大迷惑ですよ。

「はあ〜」

この日、既に何度行つたか忘れた溜息を僕はまた吐いた。



今僕が居る此処。実は此処は僕の家なのだが、同時に此処は魔王の住む城、即ち『魔王城』なのです。

辺りは暗雲が立ちこめており雷鳴が鳴り響き、空には蝙蝠こつもりが飛び回りかなり不気味な雰囲気を放っている。

しかし、其処から一步外へ出ると外は別世界であつたりします。

実はこの魔王城のすぐ下には僕の生まれた時からある村の『タダノ村』があります。

其処では毎日多くの勇者や魔物が日々自分達の戦利品を交換したり新しい装備や便利アイテムを揃えようとしているので毎日賑わっています。

その為、以前はとても小さな村だったんですが、今はとても賑わっている村になっています。

大きさも以前より二回り位大きくなり、住んでる人もかなり増えました。

村自体が潤っているのは嬉しい事なのですが・・・その理由がよりによって僕の父が魔王業を行っているせい・・・だと言うのがちょっと悲しい気分です。

ええ、とても悲しい気分ですよ。

だって・・・僕は以前の父は好きでしたが・・・はつきり言って今の父はあんまり好きじゃありません。

って、第1話目からこんな感じの滑り出しで良いのかなあ？

え？ページの都合上今回は此処まで？だってまだ僕と父さんしか出てませんよ？

え！あんまりお前がダラダラ喋ってたせいで時間が無くなった？

ご・・・御免なさい。



第1話 時が経って僕は相変わらずで（後書き）

次回はどうなるのか？

それは作者も分かりません（笑）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2728ba/>

---

続・父が魔王で息子が勇者で！？

2012年1月6日23時47分発行